



豚コレラの感染が広がっています。

豚コレラに感染した野生イノシシの確認地点から10km以内にあり、監視対象となっていた三重県いなべ市の養豚農場（約4,000頭飼養）で7月24日に豚コレラの発生が確認されました（32例目）。さらに、7月27日には岐阜県恵那市の養豚農場（約1,000頭飼養）、7月29日には福井県越前市の養豚農場（309頭飼養）で豚コレラの発生が相次いで確認されました（33例目、34例目）。三重県及び福井県の養豚場における発生は初であり、昨年の9月以降、豚コレラは計7府県に広がりました。発生を受けて当該農場及び農場を中心とした制限区域内では、本病のまん延防止のための防疫措置が実施されています。

また、野生イノシシにおける豚コレラの感染も拡大しており、岐阜県、愛知県、三重県、福井県、長野県に加え、7月29日に富山県でも感染が確認されました。

中部地方を中心に豚コレラウイルスの感染が急速に拡大しており、県内においてもウイルスの侵入リスクが高い状況が続いています。関係者におかれましては、豚の導入・出荷時の車両消毒や、衛生管理区域に出入りする際の消毒等、飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、本病の侵入防止に努めていただくようお願いいたします。

豚コレラは特徴的な臨床症状や病変を示さないとされていますが、豚に異常が確認された場合は、速やかに家畜保健衛生所へ連絡をお願いいたします。

衛生管理を徹底しましょう!



関係者以外の農場への立入を禁止



農場(畜舎)に出入りする際には、消毒を実施



飼料に生肉を含む又は含む可能性がある場合は、十分に加熱処理

豚コレラ

2018年9月、11月、12月、2019年1月
 日本で発生

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です!

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等
異状を発見したら直ちに通報しましょう!



耳翼の紫斑



元気がない



結膜炎

写真出典: 岐阜県

重症例は後肢麻痺・運動失調・四肢の激しい痙攣などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

日本脳炎注意報が発令されました。

熊本県では、日本脳炎の流行を予測するため、毎年7月から9月にかけて県内産肥育豚の日本脳炎ウイルス抗体検査を行っており、今年は、7月22日に採血した豚15頭中1頭から日本脳炎の抗体が検出されました。この結果を受けて熊本県は、7月25日に日本脳炎注意報を発令しました。日本脳炎に感染するリスクが高まっていますので、下記に示す感染予防対策をお願いします。

感染予防

- ・コガタアカイエカに刺されないよう心がけましょう。
虫よけスプレーや蚊取り線香などを利用し、肌を露出しない服装を心がけましょう。特に蚊の発生が多い水田地帯や豚など動物を飼育している地域では、防虫対策が重要です。
- ・日本脳炎ワクチンを接種することで、日本脳炎にかかりにくくなります。

日本脳炎について

日本脳炎は、蚊（コガタアカイエカ）が媒介するウイルスによる感染症で、人は日本脳炎ウイルスに感染した豚を吸血したコガタアカイエカに刺されることで感染する恐れがあります。

人は、日本脳炎ウイルスに感染してもほとんどの人は症状が出ませんが100～1,000人に1人が発病します。発病する場合は、6～16日の潜伏期の後、高熱、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

令和元年度宮崎県熊本県県境防疫会議を開催しました。

7月24日（水）、中央家畜保健衛生所において、県境の家畜防疫等の情報を共有し、今後の防疫対策を徹底するため、令和元年度(2019年度)宮崎県熊本県県境防疫会議を開催しました。

会議では、県境付近に位置する大規模養鶏農場の情報や宮崎県のHPA1防疫対応の事例紹介、各県のEBL防疫対策について意見交換を行い、家畜防疫の円滑な推進を図りました。



近隣諸国における悪性家畜伝染病発生情報

病名	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ	ネパール	家きん	令和元年(2019年)6月11日
	ベトナム	家きん	令和元年(2019年)6月23日
アフリカ豚コレラ	中国(4件)	豚	令和元年(2019年)6月18日 ～令和元年(2019年)7月31日

令和元年(2019年)8月1日現在

毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

